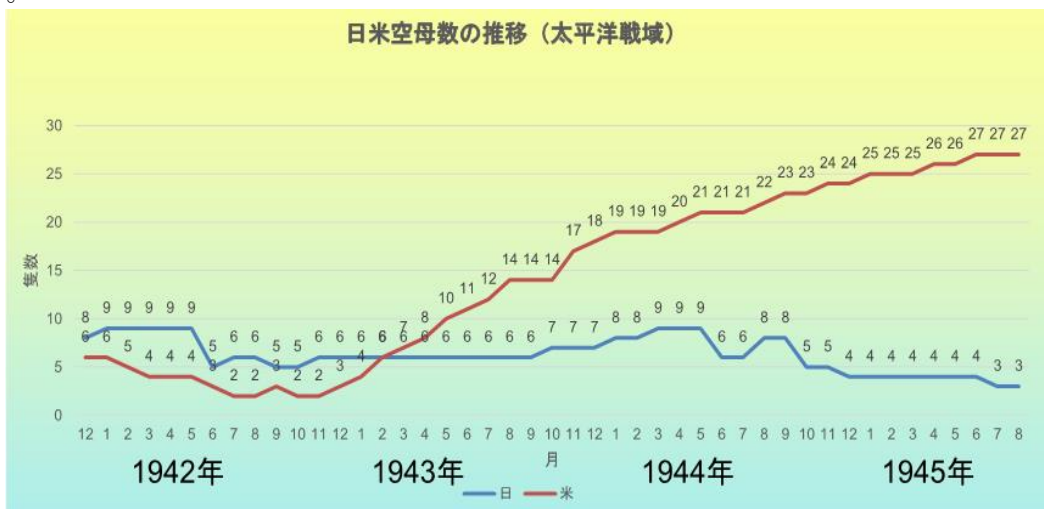


第三百六話 日米空母決戦に勝機なしか？

大東亜戦争はある意味で日米海軍の戦いであり、そしてそれは明らかに空母により雌雄を決した戦いでもあった。空母の質・量において、日米開戦時には、日本が優勢であり、その優勢もある程度持続していたのだが、それを活かせなかった。一方、米国は、その工業力を遺憾なく発揮して、空母を続々と就役させて、日米の戦力が逆転、遂にはその懸隔は驚くほどに広がり、到底太刀打ちできなくなったのだ。

1 太平洋戦域における日米空母数の推移

太平洋戦域における日米空母数の推移は下図の通りである。護衛空母や軽空母等はカウントされていない。日米戦の帰趨を空母数だけで判断することは無謀ではあり、艦載機数の推移も見べきだろう。然りながら、この図だけでも色々なことを教えてくれる。



2 この図から見えること

- (1) 山本連合艦隊司令長官が言明した如く、開戦後一年から一年半は日本機動部隊が優勢である。そういう意味においては、短期決戦にも一理ある。
- (2) ミッドウェー海戦時(1942/6)には日本が優勢で、ガ島撤退時期(1943/2)には日米パリティであると云うことだ。艦載機数数も開戦時にはパリティだった。
- (3) 1943年春頃から、米国の工業力がフル稼働し、空母が月一程度の割合で実戦投入されている。大西洋正面への空母配備をも考えれば、米の工業力は驚嘆すべきものだ。
- (4) 日本の工業力は、米国に比すれば余りにも劣弱である。

3 妄想？

- (1) 真珠湾奇襲で米空母を攻撃撃破できなかったのが悔やまれる。
- (2) 日本が優勢な空母を保有している間に米海軍をもっと徹底的に叩けなかったのか？ 然すれば、戦局はかなり異なったものになったことは疑いがない。完膚なきまでに米空母機動部隊を撃滅できなかったのか？日本の索敵の失敗や戦意不足がある？
- (3) 日本海軍伝統の邀撃作戦のために、不沈空母網を構成出来たら、面白かったろう。絶対国防圏(1943/9/30)を不沈空母化し得たならばと考えると。
- (4) 空母も戦艦も日本海軍は集中運用していない嫌いがある？珊瑚海海戦(1942/5/7)がその典型だ。その点、米海軍は徹底している。(301話参照)言いたくはないが、艦隊保全思想があったのかも知れぬ？
- (5) 日米空母決戦では、空母の質・量の他艦載機の質・量が重要ファクターであるが、当初の間は日本がその何れにおいても優っていたのだが・

(了)